

テクノの未来を考えるニュースレター

Vol.

5

テクノの
未来を
考える

2026年9月

みんなで出し合った 意見をご紹介します!

現在、播磨科学公園都市の新たなあり方について、「まちづくりチーム」「都市フレームチーム」「イノベーションチーム」の3つのチームに分かれて検討を進めています。

令和8年8月12日には、「イノベーションチーム」のチーム会議を開催しました。主なご意見は裏面に掲載していますので、ぜひご覧ください。

今後も3つのチーム会議の開催状況や意見交換の内容については、「チーム会議ニュース」として引き続きお知らせしていきます。

チーム会議 開催概要【イノベーションチーム(第2回)】

■日 時:令和8年8月12日(水曜日)

15時30分～17時00分

■場 所:光都プラザ cotohana (+ Web)

■出席者数:15名(有識者3名、行政職員12名)

■プログラム内容:

1.開会

2.概要説明

3.協議

・光都におけるイノベーションについて意見出し

・検討項目の確認(項目の過不足の有無)、検討内容のイメージ合わせ

・各コーディネーターからのコメント

4.閉会

・光都におけるイノベーションの捉え方や活性化のイメージ、他都市の事例紹介について事務局等から説明を行った後、参加者全員で意見交換を行い、検討項目の過不足や今後の議論の方向性について確認しました。

【イノベーションチームの主な論点】(令和7年度第3回あり方協議会資料より)

カテゴリー	主な論点
科学技術 ・産業振興	● 立地の優位性等を活かした企業誘致 ● 研究成果の社会実装・地域還元 (起業、試作・実証フィールド等) ● 産学官民の連携促進 ● 研究者の滞在環境整備 ● 人材循環の仕組み 等
その他	● 播磨科学公園都市ならではの会議・イベント・ツーリズム等の開催・定着 ● 科学技術を核にしたオープンで国際的な都市イメージ・ブランドの構築 ● まちびらき30周年を区切りとしたレガシーの形成 ● 多自然地域の今後のくらしと産業のあり方



☆コラム みんなで試して、 みんなで考える『リビングラボ』

リビングラボとは、住民や企業、大学・研究機関、行政などが一緒になって、暮らしの中の「もっとこうなったらいいな」を考え、実際のまちで試しながら、よりよい形を探していく取組です。

テクノには、広い道路や豊かな自然、先端研究施設、大学や企業など、さまざまな特徴があります。こうした環境を生かしながら、「テクノだからできること」を考えてみるのも楽しそうです。例えば、新しい移動の方法を試したり、自然を生かしたイベントを考えたり、学生や研究者と一緒に暮らしに役立つ技術を試してみたり。大きな取組だけでなく、まずは小さく始めて、参加した人の声を聞きながら少しずつ育てていくこともできます。

暮らしの中の小さなアイデアから、テクノの新しい可能性が広がっていくかもしれません。



チーム会議の様子

主な意見



その他、全ての意見
はこちら！



参加者

- 電柱がなく道路が広いなど、テクノならではの環境を活かし、企業に「ここで実証したい」と思ってもらえる受入れ体制を整えることが重要
- 移動の課題や子どもの科学教育など、地域住民の生活と直接関わるテーマを設定し、住民モニターのような身近で小さな実証を積み重ねながら、地域課題の解決につなげてはどうか
- 実証実験を行うこと自体を目的とせず、「その先に何が生まれるのか」という視点を持ち、実証を新たなサービスや取組、地域への具体的な成果につなげていくことが重要
- 新たな事業者をすべて外から呼んでくるのではなく、近隣市町に既にある事業者や取組、県立大学の学生など、地域にある人材や資源を起点に連携を広げていくことが必要
- ドローンは資格取得やコンペだけでなく、研究開発や新しい機体・技術の実証と結び付け、先進地域との差別化を図りながら「ここでなければできないこと」をつくることが重要
- SPring-8に研究者が滞在していても、まちなかには十分に出てきていない現状を踏まえ、研究施設とまちとの接点をつくり、研究者や学生が地域に関わる機会を増やすことが重要
- SPring-8の研究成果と、たつの市・上郡町・佐用町などの地場産業や地域の食を結び付け、新たな商品や価値を生み出すことで、研究都市ならではの地域の魅力発信につなげてはどうか
- まちびらき30周年やアニメ「LONA」を一過性の取組で終わらせず、地域の名物や観光資源、SPring-8などの研究施設と結び付けながら、継続的な地域PRや来訪のきっかけにつなげる必要がある



有識者（コーディネーター）

- 持続的なイノベーションを考えるうえでは、生活に密着した川下型の実証だけでなく、目標や先端研究から展開する川上型の取組も組み合わせる考えることが重要
- 研究者が「ここ来ると心地よい」「滞在していて楽しい」と感じられるよう、食や宿泊、交流、多自然地域での暮らし方なども含め、研究活動を支える滞在環境を整えていくことが大切
- 産業クラスターはテクノ単独に閉じて考えるのではなく、西播磨全体、さらには兵庫県全体としてどのような産業を育てるのかを考え、その中でテクノが担う役割を位置付ける必要がある
- トップ研究者だけでなく、研究や社会実装を現場で支える中間的・サポート的な人材を養成することが重要であり、大学や高専、専門学校なども含めた人材育成の仕組みを検討する必要がある
- 技術開発だけでなく、生活の場そのものをフィールドとして大学・企業・住民が関わり、地域課題や暮らしのニーズを起点に研究や実証を進める仕組みをつくることも、テクノの可能性として考えられる

チーム会議はスタートしたばかりです。今後もワークショップ等の意見交換の機会を予定しています。テクノの未来を、一緒に考えていきましょう！



播磨科学公園都市の新たなあり方 検討協議会マネジメント会議

【事務局】兵庫県企業庁 地域整備振興課
【電話番号】078-362-3850
【E-mail】chiikiseibi@pref.hyogo.lg.jp

テクノのあり方検討
についての詳細情
報はこちらをご覧
ください
(兵庫県企業庁HP)

